

外見上の老化サインが虚血性心疾患のリスクに関係

心臓血管病は老化による疾患の一つであり、また主要な死亡原因の一つでもある。本研究では、外見上の老化サインが、実年齢とは関係なく、虚血性心疾患や心筋梗塞、死亡のリスクと関連付けられるのかを検討した。

虚血性心疾患のない、20歳から93歳の10,885人を対象とし、1976年から2011年6月まで追跡した。35年間の追跡期間中、3,401人が虚血性心疾患を発症し、1,708人が心筋梗塞を発症した。実年齢および心臓血管病のリスク因子について補正したところ、前頭頭頂部の禿げ、頭頂部の禿げ、耳たぶのしわ、まぶたの黄色板は、虚血性心疾患や心筋梗塞のリスクの上昇と関連性がみられた。外見上の老化サインの数に応じて虚血性心疾患および心筋梗塞のリスクは上昇し、一つも外見上の老化サインがなかった人と比べて、3-4つの老化サインがあった人では、危険率はそれぞれ1.40倍、1.57倍となった。男女とも、いずれの年齢においても、外見上の老化サインが多いほど虚血性心疾患や心筋梗塞の10年間のリスクは上昇した。

したがって、禿げや耳たぶのしわ、まぶたの黄色板は、実年齢や心臓血管病のリスク因子とは独立して、虚血性心疾患や心筋梗塞のリスクの上昇と関連性があるといえる。老けて見えるのは心臓血管が健全でないことの指標となることが初めて示された。

出典：Circulation. Published Online: Dec. 13, 2013; doi: 10.1161